

# 夏と悲運

中原中也

青空文庫



とど、俺としたことが、笑ひ出さずにやゐられない。

思へば小学校の頃からだ。

例へば夏休みも近づかうといふ暑い日に、

唱歌教室で先生が、オルガン弾いてアーエーイー

すると俺としたことが、笑ひ出さずにやゐられなかつた。

格別、先生の口唇が、鼻腔が可笑しいといふのぢやない、

起立して、先生の後からあと歌ふ生徒等が可笑しいといふのでもない、

それどころか、俺は大体、此の世に笑ふべきものがあらうとは思

つちやゐなかつた。

それなのに、とど、笑ひ出さずにやゐられない。

すると先生は、俺を廊下に立たせるのだった。

俺は風がよく通る廊下で、随分淋しい思ひをしたもんだ。

俺としてからが、どう反省のしやうもなかつたんだ。

別に邪魔になる程に、大声で笑つたわけでもなかつたし、

それにしてもだ、先生がカン／＼になつてたことは事実だし、

先生自身何をそんなに怒るのか知つてゐぬらしいことも事実だし、

俺としたつて意地やふざけで笑つたわけではなかつたのだ。

俺は廊下に立たされて、何がなし、「運命だ」と思ふのだつた。

大人となつた今日でさへ、さうした悲運はやみはせぬ。

夏の暑い日に、俺は庭先の樹の葉を見、蟬を聞く。

やがて俺は人生が、すっかり自然と遊離してゐるやうに感じだす。すると俺としたことが、とど、笑ひ出さずにやゐられない。

格別俺は人生がどうかのかうのと云ふのではない、

理想派でも虚無派でもあるわけではない。

孤高を以て任ずるなどといふのぢや尚更ない。

しかし俺としたことが、とど、笑ひ出さずにやゐられない。

どうして笑はざゐられぬか、実以て俺自身にも分らない。

しかしそれが結果する悲運ときたらだ、いやといふほど味はつてゐる。

(一九三七・七・一二)

# 青空文庫情報

底本：「中原中也詩集」角川文庫、角川書店

1968（昭和43）年12月10日改版初版発行

1973（昭和48）年8月30日改版13版発行

入力：ゆうき

校正：木浦

2013年1月23日作成

2018年12月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://w>

ww.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# 夏と悲運

中原中也

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>